

教育研究所だより

No.225 令和3年10月4日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu_index.html

未来へつなぐ環境都市“守山”

守山市 環境生活部 環境政策課
課長 井上 敦

～新環境センター稼働にあたり～

10月1日から新環境センターが稼働しました。今回、新たな環境施設の開始に伴い、ごみの分別方法や指定ごみ袋などを見直しています。皆さまには「ごみ・資源物収集カレンダー」や「ごみ分別アプリ」を活用いただき、新たなごみ・資源物の分け方、出し方をお願いいたします。

さて、守山市は、平成29年10月に「守山市環境学習都市宣言」を制定し、この宣言を通じて、市民の皆さまが新環境センターにおける環境学習はもちろんのこと、琵琶湖や地球環境、身近な自然などについて理解を深め、ともに学び、考え、行動することにより、この素晴らしい守山の環境を未来に継承するとともに環境に関心を持つ子どもたちが育ち続ける街となるよう、ともに取り組んでまいりたいと考えております。

また、その宣言を具現化する拠点として、守山市環境学習都市宣言記念公園（愛称：もりやまエコパーク）内に交流拠点施設を本年4月にオープンし、「環境」「健康」「交流」をはぐくむ活動拠点づくりを基本理念に、一つには、環境学習室や工作室、キッチンスペースといった環境学習機能、二つには、新環境施設の余熱を活用した温水プール、トレーニングジムといった健康増進機能、そして、三つには、温浴施設、多目的ホールのほか、自由に、読書や学習、飲食や憩うことができるスペースからなる交流促進機能、この3つを兼ね備えた施設として、多くの皆さまにご来館いただいております。

10月からは、新環境センターの施設見学を開始し、交流拠点施設においても、今年度のテーマを「地球環境」として実践できる講座を開催いたします。地球環境には「地球温暖化」「エネルギー」「ごみ問題」など、多くの要素が絡み合っており、増え続けてきたごみが環境に悪影響を与えないよう3Rを推進することが一番大切です。

3Rの推進とは、まずは、ごみの発生を抑制する Reduce(リデュース)、再利用する Reuse(リユース)、再資源化する Recycle(リサイクル)を推進することを言います。地球温暖化もごみ問題も、ものを大量に消費し、物質的に豊かな生活を営むという、現在の生産・消費のあり方と密接に関係しています。そうした今の生活自身を見直していくことが、ごみ問題や温暖化問題の根本的対策として大切です。まずは自分の生活スタイルを見直し、身近にできる取組みとして、ごみを作らない、出さない、そして、リサイクルすることが地球環境の保全に繋がっていくと考えています。

本市の家庭から排出される焼却ごみの組成分析を見ますと、リサイクルできる「雑がみ」が20%を占めています。この「雑がみ」を焼却ごみから資源物として分別することで、焼却ごみが減り、温室効果ガスの排出も減らせ、地球温暖化対策にも繋がります。

この地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題は、全世界的に取り組まなければならない課題ですが、持続可能な社会の構築と地球環境問題には、地域として、また市民一人ひとりとして責任を持って取り組むことがさまざまな環境問題への対策には必要です。

最後になりますが、守山の歴史が示す、市民と行政の協働と行動こそが、さまざまな環境問題を解決へと導く根源的な力になると確信しておりますことから、市民皆さまの引き続きのご協力をよろしくお願いいたします



<教育相談のすすめ>

コロナ禍が大人社会にもたらしたものはとてつもなく大きなものですが、それは子どもたちにとっても同様でした。遊ぶ友だちが変わったり、急に乱暴になったり、挨拶をしなくなったり。子どものストレス症状は、大人以上に人間関係やコミュニケーションのとり方に表れます。



急な変化に保護者が戸惑うのも当然です、わが子のストレスにすばやく気づき、それに向き合うことができればよいのですが、なかなかそううまくはいきません。保護者であるあなたが一步を踏み出せない時、どうぞ気軽にご相談ください。あなたとともに、お子様の不登校や行しぶり、子育てに関する悩みについて考えます。また、お子様自身の面接相談も行っています。ぜひご連絡ください。

【相談・お問い合わせ先 守山市教育研究所 TEL：583-4237】

<夏季研修講座講座>

今年度の夏季研修講座は、授業改善、特別支援教育・教育相談、ICT プログラミング、小中学校外国語教育、幼児教育の六つの内容において、16 講座を実施しました。

その中から、いくつかの講座内容と参加者の感想をご紹介します。



授業改善講座1 「授業づくりは学校づくりから！すご腕先生の技ってなんだろう？」

講師：物部小学校 藤 正道 教諭 ・ 守山北中学校 浅野 智子 教諭

藤先生からは、学級の3月（ゴール）の姿をイメージし、明確な意図をもって活動を仕組んでいくことが「子どもたち同士がつながる集団」を育むことにつながると教えていただきました。教師には、子ども同士をつなぐ役目があるということを改めて実感する機会となりました。

浅野先生は、生徒理解を深めるために「昼休みに教室にいること」や、生徒とつながりを深めるために、流行りの情報を収集する等、学級づくりで意識されていることや、行事は、結果にこだわるのではなく目的に意識を向けていくことの大切さについてご教示いただきました。「行事は終わってからが担任の腕の見せどころ」という言葉が、参加者の心に響きました。

・教師の願いや思っていること、考えていることは、言葉だけでなく、体験とセットで子どもたちに行うことが大切だなあと改めて感じた。

授業改善講座3 「授業づくりは学校づくりから！すご腕先生の技ってなんだろう？」

講師：物部小学校 岡田 伊津子 教頭

読みにくさや書きにくさの疑似体験を通して、読み書きに困難さを持つ子どもへの効果的な支援の在り方について考える機会をいただくとともに、「滋賀県障害者差別のない共生社会条例」から「合理的配慮の提供」についてお話をいただきました。読むことや話を聞くことが苦手な生徒に対しては、「座席配置」はもちろんのこと、「授業の組み立て方」や「板書の仕方」「指示の出し方」等を配慮するなど、指導方法を工夫していくことの大切さを改めて実感する機会となりました。

・「読めないと書けない」という言葉がとても印象に残りました。漢字の学習は「書き」ばかりを意識していたので、「読み」にもっと力を入れていきます。

特別支援・教育相談研修講座1 「支援が必要な子どもとの関わり方」

講師：守山北中学校 通級指導教室担当 松田 充史 教諭

コミュニケーションに課題のある子が職員室まで来て教師を呼ぶ場面や、やっとの思いで提出課題を完成させた子どもが課題を提出しに来た場面で、教師はどのように対応するのかを考えることで、学校全体での指導の在り方を振り返る機会をいただきました。特別な支援を要する子どもが「通常の学級で学ぶ」ことは「みんなと一緒に強要する」こととは違うということ、子どもの好きなことや得意なことを糸口に、子どものどのようなところを伸ばしていくことができるのかを考えて指導する必要があることを教えていただきました。

・どうしても支援が必要な子どもを前にすると苦手なことが目についてしまうので、子どもが得意なことを生かし、子どもが自ら考えて行動していると感じるのが重要なのだなと気づきました。

